

「広報ただみ」が昭和45年4月30日に「ただみ町政だより」としてスタートし、皆様のお手もとに配布されてから、今月号で第500号となりました。

この間、町政、政策、施策、町の話など、様々な町の動向を皆様にお伝えしてまいりました。

取材にご協力いただいた皆様、情報提供いただいた皆様、また、各コーナーに寄稿くださった皆様、そして制作に携われた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。これからも、皆様のご意向にお応えできる伝わる広報を目指し、紙面づくりに努力してまいります。よろしくお願いたします。



第500号を記念し、過去に発行された第200号、300号、400号の中で掲載された3名の皆さんにインタビューをしましたので、ご紹介します。(第100号には、インタビューの対象者がおられませんでした。ご了承ください。)

- ①只見町に期待することは…？ ②広報ただみに期待することは…？ ③今年はどうな年に…？

広 報 た だ み 昭和62年1月10日発行 (10)



楽しかった交流会

私は、今回「若人の翼」という機会に恵まれました。私達の主な訪問国は、ハンガリーとフランスでした。ハンガリーは、社会主義国、フランスは、自由主義国なのでヨーロッパで異なる二つの社会体制を体験するというその点では、ユニークで、また意



目黒やえの
ヨーロッパの旅日記 (I)

県主催の若人の翼に上福井の目黒やえさんが十月十七日から、欧州を訪問、国際理解を深めて三十一日、帰国しました。今月から数回にわたり諸外国の様子を報告していただきます。

私達欧州Ⅱコース、一行二十名は、上野駅構内「翼の像」前集合。夜九時 成田北ウィング表示板前にて出発式を終え、ゲートイン。期待と不安

義あるコースであったと思います。そしてその前には、ドイツのベルリンで西と東に一直線泊すつし、その違いをわずかなではあるが、肌で実感しました。他国を見聞することによって、良い事も、悪い事も含めいろいろな角度から日本、福島そしてこの地域を見直すことができたような気がします。行動日誌を片手に感じたことを加えながら日を追って報告していきたいと思えます。

十月十七日(金) 小雨
東京→アンカレッジ
ロンドン
私達欧州Ⅱコース、一行二十名は、上野駅構内「翼の像」前集合。夜九時 成田北ウィング表示板前にて出発式を終え、ゲートイン。期待と不安

に胸をふくらませた若人達を乗せ、JAL421便は、十二時三十二分離陸。アンカレッジ経由 ロンドンへ。機内では、飛行機の最前頭部、操縦室に入るチャンスを得る。あのジャンボジェット機を操る、人間では大脳にあたる部分である。しかし思っていたより小さな室内であったが、とにかく、まわりは、どこを見ても、装置やレーダーでビカビカ光りまるでマンガの世界のようだった。すてきな外人さんがパイロット、副パイロットは日本人、そしてその後ろにエンジニアだという知的な青年がいた。私達は中々、ビデオや写真を撮りながら、質問をし、詳しい説明を受けた。

十月十八日(土) 曇
ロンドン→ベルリン
六時三十九分、ロンドンヒースロー空港到着、さすがに霧の都。空港の路面が霧の為濡れていた。八時頃、ようやく夜が明ける。西ベルリンへ。

日本の飛行機なのに、パイロットが外人さんというのに、少し驚いた。



- ①私は農業を生業として生活しています。只見の資源、土、水、空気、雪、気候その全てが自然の恵みでありおいしい作物の源となっています。さらに素晴らしい人材が私たちの経営を支えています。ここ只見の持つ力、「只見力」は第一に只見人の持つパワー、人間の魅力でありそれに続くのが自然の恵みであると常々考えます。地理的にこの上無く不利なこの只見で「只見力」をいかに活かし只見町を生かすか、農業だけでなく、只見町民また只見に心を寄せている多くの人が振り向き起業、企業がどんどん生まれ育ってくれることを強く望んでいます。原発問題もあり多難な福島県で今こそふんばる只見町でありたい。その実現のために行政のバックアップは万全であってほしいものです。
- ②発信メディアであると同時に町民の考えや思いを拾い伝える情報源であってほしい。
- ③風評被害等に対する不安は、今年も続きますが自分たちができること、すべきことに真摯に取り組んでいきたい。愛情と責任を持って「おいしい笑顔の皆様にお届けできるように」がんばっていきます。

第200号・昭和62年1月発行

三瓶 やえさん(大倉) ※旧姓・目黒

皆様のご協力に感謝 第500号発行

バックナンバーをちょっとピックアップ

第300号・平成7年5月発行 ～五十嵐 ゆかりさん(黒谷)～



①只見にしかない、ここでなければ手に入らないような只見町のブランドを考えてほしいです。なかなか難しいとは思いますが。

②今までの広報もいいのですが、コーナーを設けて、町内のあらゆる企業の紹介なんかもいいと思います。ここは、こんなことをやっているんだとか、こんなことをしてくれるんだとか、再認識できると思います。

③まずは健康第一です。仕事でも遊びでも健康でなければ、迷惑をかけたり、つまらなかつたりします。あと今年に限ってはいないのですが、日々勉強と発見です。些細なことでも知れば面白いですから…。

深沢温泉 交流促進センター

愛称募集入選作決定!

只見町が地域活性化策の一環として建設を進めている「只見町交流促進センター」の愛称募集の入選作が決まりました。入選作と作者は次の方々です。皆さんもぜひ覚えて下さい。

最優秀作品

「季の郷」

佳作

「湯ら里」

佳作

「ゆきんこ」

表彰式で感謝状贈呈

愛称の募集は、①親しみやすい名前をつけよう、②施設のイメージアップを目的としたもので、新聞や広報等で募集したものです。この募集に対して、町内外から二九六名に及ぶ応募がありました。この中から最優秀作品一点、佳作二点が選ばれ、その表



表彰式が四月七日に役場で行われました。

渡部完爾町長から一人一人に感謝状と報奨金が贈られた後、しばし意見交換が行われました。この中で、最優秀作品に選ばれた斎藤田鶴多さんの代理で出席された斎藤清江さんは「四季折々いろいろな楽しみ方ができる只見町、この施設がその中心になってくれれば」とお話しされていました。

今後は、この施設の名称は「季の郷 湯ら里」、レストランの名称が「ゆきんこ」となります。

「ゆきんこ」 黒谷 小沼 晶子

「湯ら里」 黒谷 五十嵐ゆかり

「季の郷」 黒谷 斎藤 田鶴多

第400号・平成15年9月発行 ～横山 悟さん(黒谷)～



①2011年7月の災害の経験を生かした復興をしてもらいたい。只見町らしい景色と自然を残していってほしいのと自然を生かした町づくりを進めていってほしいです。

②500号おめでとうございます。これからも町民に接した紙面づくりを期待しています。

③月並みですが公私共にバランスよく充実した一年にしたいと思います。自分の立てた目標に向かって地道でもいいので一歩ずつ結果を残せたらいいなと思います。今年はいい一年にしたいです。



横山 悟さん (黒谷・24歳)

24 さわやか登場

「思ったような色の花が咲いたとき、やりがいを感じます。」と話す悟さんは、農業に従事しています。只見高校を卒業後、2年間の会社勤めを経て今は、カラーやリンドウ、カスミンなどの花き栽培に取り組んでいます。両親も農業ですが、花き栽培は悟さんが中心になってやっています。今年ハウスも4棟に増やしました。「自分の作った品種を市場に出せるようになりたい。」と大きな夢を持っています。

趣味は釣り。釣りは黒谷川や田子倉湖に行きますが、大物狙いというよりは、のんびりと釣り糸をたれている時間が好きなのだということです。只見の良いところは、やはり自然が豊かなことだと思います。只見町に望むことは、という問いには「良い意味でもっと有名になって欲しい」ということです。